

科目ナンバー	ARS-2-013-k			科目名	イタリア・地中海社会論		
教員名	鈴木 鉄忠			開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
概要	<p>「文明のゆりかご」と称される地中海は、古代から現在にいたるまで、ヨーロッパ内外の人びとの活発な往来の舞台となってきました。地中海(Mediterranean)という名称が「陸地のなか(medi + terrane)」という意味をもつように、3つの異なる大陸(アジア、アフリカ、ヨーロッパ)の会合う内海であり続けてきました。そのなかで「地中海の天秤」とされるイタリア半島は、地中海ヨーロッパをめぐる大きな変化のなかで繁栄と衰退を繰り返し、そのうねりに翻弄されながら、しかしときにその機会を活用しながら、歴史的に発展してきたのです。</p> <p>この授業では、通常の世界地図でイメージされるような「陸から見たヨーロッパ」ではなく、「海から見たヨーロッパ」をテーマにします。まず「鳥の目」によって、イタリア・地中海世界がどのように誕生していたのか、時代とともにどのような繁栄と衰退を経たのかを概観します。その後に「虫の目」として、イタリアや隣接諸国に位置する場所ーヴェネツィア、トリエステ、イストリア(スロベニアとクロアチア)、ランペドゥーザ島(イタリア)ーを取り上げ、それぞれの場所が地中海と中東・大陸ヨーロッパ・アフリカの「玄関口」であった歴史と現実を理解していきます。それによってイタリア・地中海社会の「多様性の中の統合」をめぐる苦闘の歩みと共生の知恵を検討していきます。</p>						
到達目標	<p>この授業では、次の3つを到達目標とします。</p> <p>①「鳥の目」(歴史的・地理的な視点による全体把握)によって、ヨーロッパを総体的に理解する視点を養うこと、</p> <p>②「虫の目」(フィールドワークによる細部把握)によって、ある都市・地域における日常生活と文化を理解する視点を養うこと、</p> <p>③それによって、「国家単位に分割されたヨーロッパ」とは別の視点でヨーロッパを見つめ直すこと。</p>						
「共愛12の力」との対応							
識見		自律する力		コミュニケーション力		問題に対応する力	
共生のための知識	○	自己を理解する力		伝え合う力	○	分析し、思考する力	○
共生のための態度	○	自己を抑制する力		協働する力	○	構想し、実行する力	○
グローバル・マインド	○	主体性		関係を構築する力	○	実践的スキル	
教授法及び課題のフィードバック方法	<p>講義形式とアクティブラーニングを組み合わせた授業を行います。具体的には次のように授業を進め、提示した課題へのフィードバックを行います。</p> <p>・コメントシートの提出、あるいは挙手による発言に対して、授業中あるいは次回授業においてリプライします。</p> <p>・授業外課題、授業中の映像資料、配布資料に基づく課題について、グループディスカッションを行うことがあります。全体で意見と質疑応答を共有し、授業の最後あるいは次回授業において、グループワークに対するコメントと講評を行います。</p>						
アクティブラーニング		○	サービスラーニング			課題解決型学修	
受講条件 前提科目	キリスト教やヨーロッパ地域に関する科目を受講済みあるいは受講中であることが望ましいです。授業中に提示される課題への取り組みや予習復習のための学習がありますので、授業内容に積極的に取り組んでください。						
アセスメントポリシー及び評価方法	<p>評価方法は以下の得点配分で行い、最終評価は総合的に判断します。</p> <p>参加点: 授業中の質疑応答や議論における発言、グループワーク、コメントシートの内容、授業課題への積極的な取り組みを含めた参加の「質」50%</p> <p>期末課題: 期末レポート 50% 評価の基準は、レポートの内容と形式に関する「評価ルーブリック」(事前に配布)を基に行う。</p>						
教材	購入が必要なテキストはとくにありません。授業時の資料(レジュメもしくはパワーポイントスライド)、予習復習のための資料を適宜配布します。						
	<p>以下は参考図書および副読本として、図書館や書店で入手するなどして、積極的に予習復習に役立ててください。なお授業のなかでこれらの文献を活用することがあります。</p> <p>地中海に関しては、以下を参照。</p> <p>F.ブローデル、『歴史入門』(金塚貞文訳)、中公文庫、2009年</p> <p>F.ブローデル、『地中海 ①～⑩』(浜名優美訳)、藤原書店、1999年</p> <p>F.ブローデル、『地中海の記憶ー先史時代と古代』(尾河直哉訳)、藤原書店、2008年</p> <p>D.アッテンボロー、『図説 地中海物語ー楽園の誕生』(橋爪若子訳)、東洋書林、1998年</p>						

参考図書	竹中克行／山辺規子／周藤芳幸(編)、『地中海ヨーロッパ』朝倉書店、2010年 樺山紘一、『地中海——人と町の肖像』岩波新書、2005年 地中海学会(編)、『地中海事典』、三省堂、1996年		
	「鳥の目」「虫の目」から見たヨーロッパに関しては、以下を参照。 増田四郎、『ヨーロッパとは何か』、岩波書店、1964年 明石和康、『ヨーロッパがわかる——起源から統合までの道のり』岩波ジュニア新書、2013年 J.ル・ゴフ、『子どもたちに語るヨーロッパ史』ちくま学芸文庫、2009年 W.H.マクニール、『世界史(上)(下)』(増田義郎／佐々木昭夫訳)、中公文庫、2008年		
	イタリアに関しては、以下を参照。 北原敦(編)、『イタリア史』山川出版社、2008年 土肥秀行／山手正樹(編著)、『教養のイタリア近現代史』ミネルヴァ書房、2017年 高橋進／村上義和(編著)、『イタリアの歴史を知るための50章』明石書店、2017年 イタリア文化事典編集委員会(編)、『イタリア文化事典』、丸善出版、2011年		
	ヴェネツィアについては、下記を参照 陣内秀信、『水都ヴェネツィア—その持続的発展の歴史』法政大学出版局、2017年 陣内秀信、『ヴェネツィア—水上の迷宮都市』講談社現代新書、1992年 W.H.マクニール、『ヴェネツィア—東西ヨーロッパのかなめ 1081-1797』(清水廣一郎訳)、講談社学術文庫、2013年		
	トリエステおよびイストリアについては、下記を参照 須賀敦子、『トリエステの坂道』新潮文庫、1998年 鈴木鉄忠、『国境の越え方——イタリア・スロヴェニア・クロアチア間国境地域「北アドリア海」を事例に』 新原道信(編著)『“境界領域”のフィールドワーク』中央大学出版部、2016年		

内容・スケジュール			
1 週目			
授業学修内容	【イントロダクション】 ・地中海とは? 海から見たヨーロッパ、地中海世界とイタリア		
授業外学修内容	地中海世界の地理的特徴を白地図に描いてくる	時間数	2
2 週目			
授業学修内容	【ヨーロッパはアジアの小さな半島】 ・「鳥の目」(歴史的・地理的視点)からみる一ひとの移動と定着		
授業外学修内容	地中海世界の地理と都市立地の関係を白地図に描きながら考える。	時間数	2
3 週目			
授業学修内容	【「文明のゆりかご」としての地中海①】 ・「鳥の目」(歴史的・地理的視点)からみる一地中海の誕生と消滅、そして復活		
授業外学修内容	・地中海世界の地理を図示しながら理解する。	時間数	2
4 週目			
授業学修内容	【「文明のゆりかご」としての地中海②】 ・ワークショップ形式で地中海の消滅と生成について議論する		
授業外学修内容	・映像で登場した地名や事項を調べる	時間数	2
5 週目			
授業学修内容	【ヨーロッパとオリエント世界の境界領域:「アドリア海の女王」ヴェネツィア①】 ・「鳥の目」(歴史的・地理的視点)でみる一海上都市ヴェネツィアの誕生と発展		

授業外学修内容	・ヴェネツィアの歴史・地理の基本的知識をワークシートで理解する	時間数	2
6週目			
授業学修内容	【ヨーロッパとオリエントの境界領域:「アドリア海の女王」ヴェネツィア②】 ・「虫の目」(フィールドワーク)でみる一広場、小路、運河、住居がひしめく日常世界		
授業外学修内容	・ヴェネツィアの日常生活について関心がある点を調べる	時間数	2
7週目			
授業学修内容	【ヨーロッパとオリエントの境界領域:「アドリア海の女王」ヴェネツィア③】 ・「虫の目」(フィールドワーク)でみる一観光資源と環境保全に揺らぐヴェネツィアのいま		
授業外学修内容	・観光地化や水没危機といった現在のヴェネツィアが直面する現実に関する配布資料を事前に読み込んでくる	時間数	2
8週目			
授業学修内容	【南ヨーロッパと東ヨーロッパの境界領域①:「小さなヴェネツィア」イストリア半島(スロヴェニア・クロアチア)】 ・「鳥の目」でみる多言語・多民族地域の形成		
授業外学修内容	・実際の地図や写真から都市の構造を調べ、複数の都市を比較する	時間数	2
9週目			
授業学修内容	【南ヨーロッパと東ヨーロッパの境界領域②:「小さなヴェネツィア」イストリア半島(スロヴェニア・クロアチア)】 ・「虫の目」(フィールドワーク)でみる多文化共生の実践		
授業外学修内容	・映像・写真・フィールドノートの事前学習を通して、多文化共生にむけたローカルの実践の意義を考える	時間数	2
10週目			
授業学修内容	【南ヨーロッパ・中央ヨーロッパ・東ヨーロッパの境界領域:トリエステ(イタリア)①】 ・「鳥の目」(歴史的・地理的視点)でみる一ラテン、ゲルマン、スラヴ世界の玄関口		
授業外学修内容	・トリエステの基本的知識をワークシートで理解する	時間数	2
11週目			
授業学修内容	【南ヨーロッパ・中央ヨーロッパ・東ヨーロッパの境界領域:トリエステ(イタリア)②】 ・「虫の目」(フィールドワーク)でみる一地中海都市の共通性と固有性、日常生活		
授業外学修内容	・トリエステの地図や写真から都市構造を調べる	時間数	2
12週目			
授業学修内容	【南ヨーロッパ・中央ヨーロッパ・東ヨーロッパの境界領域:トリエステ(イタリア)③】 ・20世紀の戦争の後に何が残ったかー故郷喪失、代償、希望		
授業外学修内容	・20世紀ヨーロッパの基本的歴史をワークシートで理解する	時間数	2
13週目			
授業学修内容	【「ヨーロッパとアフリカの玄関口」ランペドゥーザ(イタリア)①】 ・「鳥の目」(歴史的・地理的視点)でみる		
授業外学修内容	・配布する複数の資料から、多面的にランペドゥーザの島を理解する	時間数	2
14週目			
授業学修内容	【「ヨーロッパとアフリカの玄関口」ランペドゥーザ(イタリア)②】 ・「虫の目」(フィールドワーク)から安全と人権のジレンマの移民・難民問題を検討する		
授業外学修内容	・ヨーロッパ難民危機について基本的知識をワークシートで理解する	時間数	2
15週目			
授業学修内容	まとめ ・授業内容の総括とふりかえりを行い、得た知見と見識を共有する		
授業外学修内容	Kyoai Career Gateに授業のふりかえりを記入し、知識の定着を図る	時間数	2

上記の授業外学修時間の合計	30
その他に必要な自習時間	60

Number	ARS-2-013-k	Subject	Italian and Mediterranean Society			
Name	鈴木 鉄忠 (Suzuki Tetsutada)	Year and Semester	First semester for 2020	Credits	2	
Course Outline	In this course, we will focus on "Europe seen from the sea", not "Europe viewed from the land" as it is imaged on a political world map. First of all, we will outline history and geography as to how the Italian-Mediterranean world was born. Thereafter, we will scrutinize key-places located in Italy and neighboring countries - Venice, Trieste, Istria (Slovenia and Croatia), Lampedusa Island (Italy), Ceuta and Melilla (Spanish territory of the continent of Africa), Gibraltar (British territory in Iberia peninsula) - to understand the history and reality that each place was "the gateway" of the Mediterranean, the Middle East / Continent Europe and Africa. By doing so, we will examine the wisdom of struggle and coexistence over "integration in diversity" of Mediterranean society.					